

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470100716
法人名	医療法人 社団青藍会
事業所名	グループホーム 竹の子苑
所在地 (電話番号)	桑名市大字西方字芹峠1306-10 (電話) 0594-25-9222
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 2 日(木)

【情報提供票より】 (H19年7月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要(7 月 9 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	11 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.61 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 社団青藍会 青木内科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは竹林で三方を囲まれて、主要道路の側に老人保健施設がありその奥に位置している。玄関先には木製のテラスがあり、季節の花が植えら暖かみを感じられるホームである。職員は開設以来異動が少なく笑顔がとても素晴らしい、利用者も穏やかな表情で落ち着いた日常生活が伺える。法人代表が医療施設の開設者であり、医療面・健康面は行き届いている。また、法人代表が身体障害者乗馬クラブを利用しており、ホームの利用者も参加を楽しみにしている。近く職員がその様子(効果)を研究発表の予定になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の掲示については管理者、職員で話し合いわかり易い語句で「笑顔、安心、喜び、安らぎ、尊重」示されていた。ケアサービス、健康管理面についての改善もされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎の職員で取り組み、その結果を管理者、介護支援専門員がまとめて、月1回開催する連絡会議でも報告をしている。(法人代表、理事、管理者、介護支援専門員)
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は昨年10月から実施している。本年は4回開催予定、去る7月実施し検討内容はホームの状況、介護保険現況等の報告、利用者の家族からは福祉のこと、今後の重症化にむけてのケアサービスの意見が出されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	過去に家族から、玄関先に腰掛(椅子)を置いてほしいとの意見があり、すぐに対応されていた。苦情相談についての担当窓口は明記されており、家族の思いは、十分聞くように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地環境により竹林を越えた地域が、自治会のため住民との交流は日常的には難しいが、隣接の老人保健施設の利用者(地元住民)の訪問を受けたり、行事に参加するなど交流を図っている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本にホームとしては「安心、喜び、安らぎ、尊重」を掲げているが、地域密着型としての取り組みは検討しつつある。	○	地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念を明確化されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員が毎朝の申し送りの後にホームの倫理綱領(10項目)を唱和して、共有し理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの立地条件から自治会の住民と接することは少ない。隣接の老人保健施設との交流で地元の人達、ボランティアの方達の訪問を受けたり、行事への参加者もいる。	○	管理者・職員が積極的に自治会へ情報を提供し交流が図れるよう取り組みがされる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者・職員全員で検討され、管理者、介護支援専門員でまとめた。外部評価はホーム連絡会議で報告し改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年10月から実施、本年の第1回は2月に開催されホームの状況報告、家族からの意見も出されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回介護支援専門員が交流会に参加し職員(市)との連携を密にしている。	○	今後も市との連携を密にして認知症の知識の啓発に取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「竹の子だより」を年3回発行し利用者の日常の様子を家族に知らせている。健康状態で気になることがあれば随時電話等で連絡している。金銭は事務局の管理で家族も収支報告は確認している。職員の異動については、家族の訪問時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱が設置されている。家族の思いは面会時に十分聞くようにしている、過去に家族の意見で玄関先に腰掛椅子を置いた。相談窓口担当者も記載されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームとしての職員の異動はただ一人と少ない。職員は各ユニット毎で固定している。異動があったときは利用者、家族が困惑しないようにコミュニケーションを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回介護専門員連絡会議に介護支援専門員が出席して、報告をミーティングで行っている。職員は自己研修で、介護福祉士の資格をとるなど努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの直接の交流はもっていないが、社会福祉協議会の研修時に相互の情報交換をし、ケアサービスの向上に努めている。	○	近隣にはグループホームが存在しており、施設を訪問すなどの交流が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の初回は、管理者が訪問して家族や利用者に説明後、ホームに来院してもらい雰囲気に馴染むよう家族の協力を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と信頼関係を保ち、洗濯物干し、衣類の整理など手伝ってもらいながら共に生活している関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、思いを週1回のカンファレンスを行いモニタリングで利用者の意向にそうように話あっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は居室担当制をとっており利用者、家族等の意向をくみ取り、その後全職員で意見交換をして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回は見直しされている。利用者の状態に応じて随時、話し合い見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診、隣接の老人保健施設の理容を利用する時、職員が一緒に行く等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解のもとで、法人の医療機関がかかりつけ医になっているため医療連携はよい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に利用者の急変時のケアの経験がある。終末期ケアは職員、利用者、家族とかかりつけ医との話し合いで決めるが法人の医療機関への協力は得られやすい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導等は、一人ひとりにあった声かけに配慮している。書類等の個人情報を利用者、家族の同意書をとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活リズムは決まっているが散歩に行く人、買い物行く人、食事の準備を手伝う人等それぞれ利用者の意向にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな献立で季節感のある料理を利用者のペースに合わせて一緒に作り、職員は利用者と同じ食事をとり会話も弾んでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する利用者もいるが、週3回は入浴してもらっている。入浴時間帯はゆっくりは入れるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、好きな事を見出し、食事の準備、花の水やり、野菜づくり等をやっている。年3回身体障害者乗馬クラブに(5名)参加し、馬に人参を与えることも楽しみにもなっている。	○	法人代表の利用している身体障害者乗馬クラブへの参加を3年間継続しており、参加利用者も物事への自信となり、動物愛護の気持ちも芽生えてきた。近く事例研究の発表予定である。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい日はホームの周囲の散歩、花壇の水遣りをしている。買い物、時に喫茶店に出かける等支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は開放的で鍵はかけられていなかった。玄関は午前中は施錠していないが、入浴中の時間帯は、施錠している。	○	入浴時の施錠について安全管理の観点だけでなく、他に施錠しない方法がないか検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアル、感染症マニュアル等、緊急連絡網は作成されていた。今年消防署の指導で避難訓練、初期消火訓練も実施した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量は記録されていた。糖尿病、循環器疾患(心臓病等)の栄養、水分管理もされている。月1回の給食委員会で(老人保健施設共同)食事についての検討がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂には季節の花が活けてあり、畳コーナーもあり利用者は思い思いの場所で、心地よく過して見えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、収納戸棚は設置されていた。居室はテレビ等が持ち込まれ家族の写真も飾られ落ち着いて過ごせるようになっていた。		